

アルファ・ウイン 企業調査レポート

ピー・シー・エー

(9629 東証一部)

発行日：2020年1月31日

アルファ・ウイン 調査部
<http://www.awincap.com/>

● 決算速報

◆ 基幹業務用ソフトウェアに特化した專業大手、クラウドで先行し業界NO. 1

- ・ピー・シー・エー株式会社（以下、同社）は、独自に開発した業務用パッケージソフト（会計、販売管理・仕入在庫管理、給与・人事、就業管理など）を、主に中小企業向けにオンプレミスやクラウドにて提供し、保守サービスを行っている。企業の円滑な経営・運営をサポートする「マネジメントサポート・カンパニー」として社会に貢献することを使命としている。業務用ソフトのクラウド（PCA クラウド）では先行し、業界 NO1 の実績を誇る。
- ・サブスクリプション・ビジネスモデルへの転換が奏功、加えて特需の恩恵も享受し業績は絶好調を継続。下期に入って、特需の反動減が会社想定以下で推移しており、今通期の業績見通しを売上高・利益とも再度上方修正した。5年連続の増収増益、過去最高売上高、並びに利益の更新が確実視される。

◆ 今期第3四半期（累計）決算～大幅な増収増益、過去最高売上高・利益を更新。

<2020/3 第3四半期（2019年4～12月：以下、4～12月＝Q3 累計）>

- ・同社の Q3 累計（4～12月）業績は、売上高 10,706 百万円（前年同期比＝YOY:36.6%増）、営業利益 2,548 百万円（同 388.4%増）、経常利益 2,566 百万円（同 368.7%増）、当期純利益 1,646 百万円（同 343.7%増）と、第2四半期（2019年4～9月：以下、Q2 累計）に続き極めて好調な決算となった（図表1右列・累計を参照）。Q3 累計としては、売上高、各利益とも過去最高を更新した。
- ・大幅な増収増益は、①同社の製品・サービスや営業の両面での強化（クラウドビジネスへのシフト、連結子会社であるクロノス社が手掛ける働き方改革関連の就業管理システムなど製品のラインナップの拡充、直販の拡大、PCA フェスタの継続開催、販売パートナーとの連携強化等）といった自助努力に加えて、②日本企業の堅調な業績と情報サービス産業における IT 投資の回復、③消費税増税対応のソフトの入れ替えや 2020年1月の Windows7 のサポート終了に伴う PC の買い替え関連の需要を背景にした特需の発生が主要因として挙げられる。
- ・Q3 累計では、ペーパーレス化の流れもあり商品（帳票等）が 0.9%の減収となった以外は、残る 4 種類別売上高はいずれも 2 桁の増収となっている。クラウドに加え（詳細は後述）、特需の恩恵があった製品（従来型ソフトウェア:オンプレミス）とその他営業収入が大きく増収に寄与した。製品は、スタンドアロンとして利用しているユーザーの買い替え需要が継続し、消費税改正に伴い会計や販売管理の商魂・商管ソフト、就業管理システムが伸長した（YOY:87.2%増）。その他営業収入も各種システムの導入サービス（連結子会社・ケーイーシーが担当）に加え、他社商品の販売が寄与し順調に売上高を伸ばした（YOY:39.3%増）。中でも好採算の製品、並びにクラウドの増収効果が、収益面でも大きく貢献したと推測される。今通期の新会社業績予想に対する Q3 累計の進捗率は、売上高が 77%（前年 Q3 累計:69%）、営業利益が 97%（同 42%）と高く、通期計画の達成確度は高い。

- ・利益面では、限界利益率が高いビジネスモデルであり、大幅増収が利益率の改善と大幅な増益に直結している。ソフトウェアの償却が前年度までではほぼ終了した原価低減効果もあり、粗利率は前 Q3 累計の 55.7%から、今 Q3 累計では 60.5%へと 4.8%もの改善となった。加えて販売管理費は YOY で 86 百万円、

ショートレポート

1/6

アルファ・ウイン企業調査レポート(以下、本レポート)は、掲載企業のご依頼によりアルファ・ウイン・キャピタル株式会社(以下、弊社)が企業内容の説明を目的に作成したもので、投資の勧誘や推奨を意図したものではありません。本レポートに掲載された内容は作成日における情報に基づくものであり、予告なしに変更される場合があります。本レポートに掲載された情報の正確性・信頼性・完全性・妥当性・適合性について、いかなる表明・保証をするものではなく、一切の責任又は義務を負わないものとします。弊社は、本レポートの配信に関して閲覧した投資家の皆様が本レポートを利用したこと、又は本レポートに依拠したことによる直接・間接の損失や逸失利益及び損害を含むいかなる結果についても責任を負いません。最終投資判断は投資家ご自身においてなされなければならず、投資に対する一切の責任は閲覧した投資家の皆様にあります。また、本件に関する知的所有権は弊社に帰属し、許可なく複製、転写、引用、翻訳等を行うことを禁じます。

2.2%増と増収率の 36.6%と比較し小幅に留まった（売上高販管費率 49.1%→36.7%、12.4%の改善）。この結果、営業利益率は 6.6%から 23.8%へと大きく改善している。営業外、及び特別損益に大きな発生はなく、Q3 累計の当期利益は YOY で約 3.4 倍増となった。

【図表 1】四半期の業績推移と計画

第1四半期業績		2019/3第1四半期	2020/3第1四半期	増減率	増減額	増収寄与率	売上高増成比		
単位:百万円		2018年4-6月	2019年4-6月	YOY: %	YOY: 百万円	%	%		
連結売上		2,348	3,073	31.0	727	100.0	100.0		
種類別 売上区分	製品	384	652	68.3	258	35.5	21.2		
	商品	107	102	-4.8	-5	-0.7	3.3		
	保守サービス	788	865	9.8	77	10.6	28.1		
	クラウドサービス	544	784	40.8	220	30.3	24.9		
	その他営業収入	511	689	34.7	177	24.4	22.4		
粗利		1,287	1,888	45.1	591				
	粗利率 (%)	54.8	60.8						
販売管理費		1,229	1,281	4.2	52				
	売上高販管費率 (%)	52.4	41.7		-10.7				
営業利益		57	587	917.5	530				
	営業利益率 (%)	2.4	19.1		16.7				
当期利益		34	384	845.3	330				
	当期利益率 (%)	1.4	11.8		10.4				
第2四半期業績		2019/3第2四半期	2020/3第2四半期	増減率	増減額	増収寄与率	売上高増成比		
単位:百万円		2018年7-9月	2019年7-9月	YOY: %	YOY: 百万円	%	%		
連結売上		2,571	4,066	58.3	1,525	100.0	100.0		
種類別 売上区分	製品	419	1,190	184.3	771	50.6	29.1		
	商品	100	117	16.5	17	1.1	2.9		
	保守サービス	765	833	8.9	68	4.5	20.3		
	クラウドサービス	585	804	37.4	219	14.4	19.6		
	その他営業収入	704	1,153	63.9	449	29.5	28.1		
粗利		1,427	2,475	73.4	1,048				
	粗利率 (%)	55.5	60.4		4.9				
販売管理費		1,241	1,291	4.0	50				
	売上高販管費率 (%)	48.3	31.5		-16.8				
営業利益		187	1,184	532.9	997				
	営業利益率 (%)	7.3	28.9		21.6				
当期利益		182	813	401.9	631				
	当期利益率 (%)	6.3	19.8		13.5				
第3四半期業績		2019/3第3四半期	2020/3第3四半期	増減率	増減額	増収寄与率	売上高増成比		
単位:百万円		2018年10-12月	2019年10-12月	YOY: %	YOY: 百万円	%	%		
連結売上		2,919	3,537	21.2	618	100.0	100.0		
種類別 売上区分	製品	521	854	62.6	333	21.6	18.5		
	商品	253	237	-6.2	-16	-2.5	6.7		
	保守サービス	765	894	16.8	129	20.8	25.3		
	クラウドサービス	624	882	35.9	258	36.9	24.4		
	その他営業収入	748	890	19.3	144	23.3	25.2		
粗利		1,653	2,137	29.3	484				
	粗利率 (%)	56.8	60.4		3.6				
販売管理費		1,375	1,359	-1.1	-16				
	売上高販管費率 (%)	47.1	38.4		-8.7				
営業利益		277	777	180.5	500				
	営業利益率 (%)	9.5	22.0		12.5				
当期利益		175	489	188.0	294				
	当期利益率 (%)	6.0	13.3		7.3				
第4四半期業績		2019/3第4四半期	2020/3第4四半期計画	増減率	増減額	増収寄与率	売上高増成比		
単位:百万円		2019年1-3月	2020年1-3月	YOY: %	YOY: 百万円	%	%		
連結売上		3,603	3,158	-12.4	-445	-100.0	100.0		
種類別 売上区分	製品	1,183	642	-64.2	-541	-144.0	17.2		
	商品	103	103	0.1	0	0.0	3.3		
	保守サービス	807	867	7.4	60	13.5	27.4		
	クラウドサービス	688	740	31.9	220	48.4	28.8		
	その他営業収入	870	740	-15.0	-130	-29.2	23.4		
粗利		2,155	1,737	-19.4	-418				
	粗利率 (%)	59.8	55.0		-4.8				
販売管理費		1,429	1,645	15.1	216				
	売上高販管費率 (%)	39.7	52.1		12.4				
営業利益		727	92	-87.3	-635				
	営業利益率 (%)	20.2	2.9		-17.3				
当期利益		536	72	-86.5	-463				
	当期利益率 (%)	14.8	2.3		-12.6				
2019/3累計実績		2018年4-9月	2019年4-9月	増減率	増減額	増収寄与率	売上高増成比		
単位:百万円		2018年4-9月	2019年4-9月	YOY: %	YOY: 百万円	%	%		
連結売上		11,438	11,438	16.9	1,438	100.0	100.0		
種類別 売上区分	製品	2,518	2,518	28.7	287	20.7	20.7		
	商品	583	583	-0.7	-7	-0.7	-0.7		
	保守サービス	3,125	3,125	0.5	5	0.5	10.7		
	クラウドサービス	2,462	2,462	32.3	338	36.2	36.2		
	その他営業収入	2,830	2,830	NA	3,471	22.8	22.8		
粗利		6,522	6,522	18.9	8,217	26.0	26.0		
	粗利率 (%)	57.0	57.0		59.3				
販売管理費		5,274	5,274	16.5	5,578	5.7	5.7		
	売上高販管費率 (%)	46.1	46.1		40.2				
営業利益		1,248	1,248	54.7	2,640	111.5	111.5		
	営業利益率 (%)	10.9	10.9		19.0				
当期利益		908	908	105.5	1,719	89.8	89.8		
	当期利益率 (%)	7.9	7.9		12.4				

(出所) 決算短信に基づきアルファ・ウイン調査部が作成、(備考) 商品とその他収入は売上計上基準を変更したため遡及して修正(本文も同様)

<2020/3 第3四半期 (2019年10~12月: 以下、10~12月=Q3) >

- ・なお、前年の Q3 (2018 年 10~12 月) には既に特需が発生し、YOY で 17.4%の増収となっている。この水準に対して今 Q3 (2019 年 10~12 月) は、YOY で 21.2%の増収 (前 Q3→今 Q3、2,919→3,537 百万円) と続伸している。消費税改正関連など特需の反動によるマイナスインパクトは限定的であり、かつ会社想定を下回っている。全体では前 Q3 比で 617 百万円の増収幅うち、133 百万円 (増収寄与度約 22%) を製品、129 百万円 (同 21%) を保守サービス、228 百万円 (同 37%) をクラウドサービス、144 百万円 (同 23%) をその他収入が占めている。
- ・一方、今 Q2 (2019 年 7~9 月) との四半期の比較では、Q3 はクラウド、保守サービス (製品の販売好調に伴う保守契約の獲得、受注残の消化) が安定的に増収に寄与した。但し、製品・その他営業収入が、Q2 比で各 45%、23%減と大幅な減収、全体でも約 14%の減収となった。しかし、駆け込み特需が急増

ショートレポート

2/6

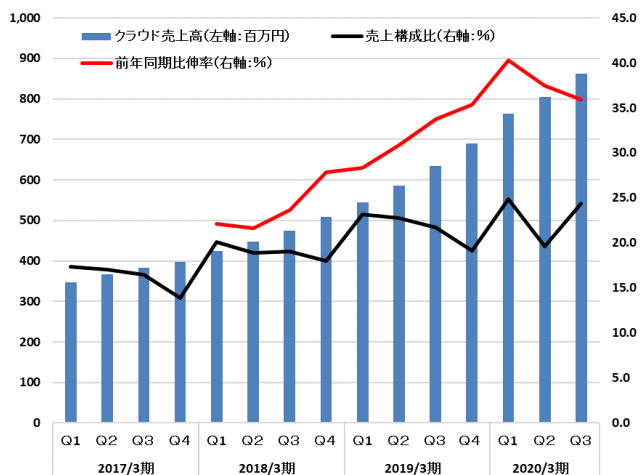
アルファ・ウイン企業調査レポート(以下、本レポート)は、掲載企業のご依頼によりアルファ・ウイン・キャピタル株式会社(以下、弊社)が企業内容の説明を目的に作成したもので、投資の勧誘や推奨を意図したものではありません。本レポートに掲載された内容は作成日における情報に基づくものであり、予告なしに変更される場合があります。本レポートに掲載された情報の正確性・信頼性・完全性・妥当性・適合性について、いかなる表明・保証をするものではなく、一切の責任又は義務を負わないものとします。弊社は、本レポートの配信に関して閲覧した投資家の皆様が本レポートを利用したこと、又は本レポートに依拠したことによる直接・間接の損失や逸失利益及び損害を含むいかなる結果についても責任を負いません。最終投資判断は投資家ご自身においてなされなければならず、投資に対する一切の責任は閲覧した投資家の皆様にあります。また、本件に関する知的所有権は弊社に帰属し、許可なく複製、転写、引用、翻訳等を行うことを禁じます。

した Q2 (特に 9 月) に対する一時的な、かつ想定内の反動減であり、ファンダメンタルズは好調を持続していると思われる。

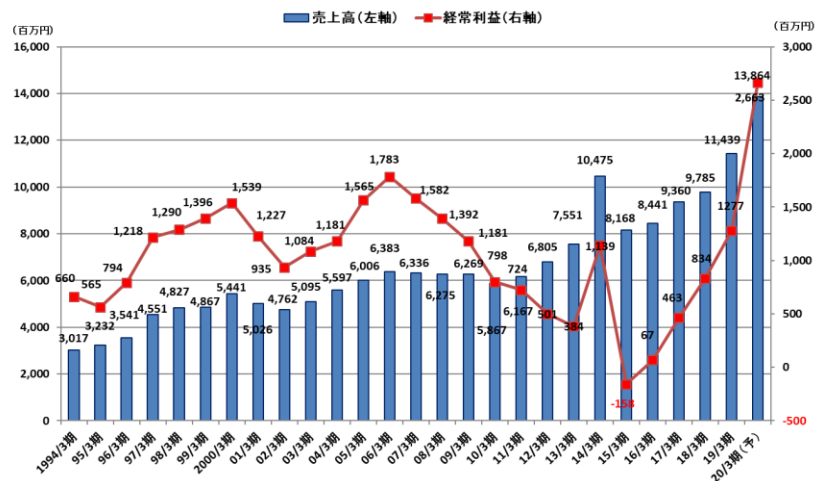
・また、減収ながら Q3 の粗利率は、Q2 と同水準の 60.4% を維持した。減収効果と販管費 (今 Q2→今 Q3、1,291→1,359 百万円) の増加で、Q2 比で約 35% の営業減益となった。四半期単位での比較においては減速感があるが、売上高の約 5 割を占めるストックビジネス (クラウド+保守サービス) が、Q2 比でも 1,637→1,756 百万円と約 7% の増収を維持し、同社の業績を底支えしていることが確認できた。

・引き続き PCA クラウドの新規会員数 (フロー) は、毎月 170 社前後のペースで順調に増加している。この結果、クラウドサービスの四半期単位の売上高は、2019/3 期 Q1 の 544 (単位：百万円) から、順に→585→634→689→764→804→2020/3 期 Q3 の 862、同期間の YOY の伸び率 (単位：%) も、28.3→30.9→33.8→35.4→40.3→37.4→36.0 と高水準を維持している (図表 2)。YOY に加え (季節性とは無関係に) 直前の四半期対比でも増加している (同期間における直前の四半期比増収率、単位：%：6.9→7.5→8.4→8.7→10.9→5.2→7.2)。同ビジネスは継続性と限界利益率が高いことから、安定的な成長ドライバーとして全体の業績にも大きく寄与していると考えられる (図表 3)。

【図表 2】クラウドビジネスの四半期別売上高推移



【図表 3】長期業績推移



(出所)決算短信に基づきアルファ・ウイン調査部が作成

・今 Q3 末のバランスシートは、前期末と比較してさらに改善している。増益が現預金 (前期末⇒今期 Q3：7,280 百万円⇒9,946 百万円) と純資産の増加 (同：11,995 百万円⇒13,755 百万円) に結びつき、今期の予想売上高、及び総資産に対する現預金の比率は、各 71.7% (平均月商の 8.6 ヶ月分)、45.4% と手元の流動性は潤沢である。また、自己資本比率は 62.8%、流動比率は 261.6% と財務体質は良好である。

◆ 通期業績予想を再度、上方修正。

・同社は、Q2 決算発表時 (2019 年 10 月 28 日) に続き Q3 の決算発表時 (2020 年 1 月 24 日) に、今通期 (2020/3 期) 業績の予想を上方修正した (図表 4)。売上高を 13,404→13,864 (前回→今回、単位：百万円、以下同様) へと+3.4% の上方修正 (以下同様)、営業利益を 2,405→2,640、+9.8%、当期利益 1,572→1,718、+9.3% へと改定した。修正後の売上高は、アルファ・ウイン調査部 (以下、当部) の従来予想を上回り、利益は予想をやや下回っているが、ほぼ想定線である。

・また、会社の通期新予想から Q3 累計の実績を差し引いた Q4 (2020 年 1-3 月) の会社前提は、売上高 3,158 百万円、YOY で約 12% の減収、営業利益で 92 百万円、同 87% の大幅減益予想となっている。コ

ストコントロールと同期間の売上高を注視する必要があるが、Q4 も Q3 と同様な売上高のモメンタムが継続しており、粗利率想定（Q4 は約 55% の前提、Q3 累計では 60.5%）をシビアに、また特需の反動による減収とコスト増を大きく見積もっており、やや保守的な予想と推察される。

- ・ 当部では、近況と Q4 の会社前提を踏まえ、売上高を若干上方修正した。同社が Q4 に先行投資（広告宣伝費・OA 機器費・修繕費）や期末賞与を上積みする意向であるから、利益予想は据え置いたが、当部予想を上回る余地はあると考えている。
- ・ なお、同社は、今期（普通）配当、年間 31 円の見通しを変えていない。

【図表 4】今期業績予想の修正

連 結 (単位: 百万円)	2020年3月期						2020年3月期 当調査部		当部・新旧予想の比較		当部新予想と会社新予想との比較	
	会社期初予想	会社旧予想	会社新予想	新旧増減額	新旧増減率	前年同期比	旧予想	新予想	増減額/差	増減率%	増減額/差	増減率%
売上高	12,783	13,404	13,864	460	3.4	21.2	13,600	14,000	400	2.9%	136	1.0%
売上総利益	7,331	8,236	8,217				7,800	8,300	500	112.4%	83	1.0%
売上高総利益率	57.3%	61.4%	59.3%				57.4%	59.3%	1.9%	-	0.0%	-
販売管理費	5,852	5,831	5,553				5,100	5,600	500	9.8%	47	0.8%
販管費比率	45.8%	43.5%	40.1%				37.5%	40.0%	0.0%	-	-0.1%	-
営業利益	1,478	2,405	2,640	235	9.8	111.5	2,700	2,700	0	0.0%	60	2.3%
営業利益率	11.6%	17.9%	19.0%				19.9%	19.3%	0.0%	-	0.2%	-
経常利益	1,499	2,435	2,663	227	9.3	108.5	2,730	2,730	0	0.0%	67	2.5%
経常利益率	11.7%	18.2%	19.2%				20.1%	19.5%	0.0%	-	0.3%	-
親会社株主に帰属する当期純利益	976	1,572	1,718	145	9.3	89.6	1,750	1,750	0	0.0%	32	1.9%
当期純利益率	7.6%	11.7%	12.4%				12.9%	12.5%	0.0%	-	0.1%	-
1株当たり年間配当金	31	31	31				41	41	0	-	10	-

(出所) 決算短信、取材に基づきアルファ・ウイン調査部が作成

◆ 来期は特需の反動で一時的に減収減益を予想、但し中期の利益成長力には変化なし。

- ・ 来期（2021/3 期）は特需効果の反動から、一時的な減収減益を当部では予想している。しかし、引き続きストックビジネスが安定成長すると見込まれること、今期（特に Q4）に積み増すコストがバッファー（推定 4～5 億円）になると思われることから、前回（2015/3 期）の特需の反動時に赤字に転落した状況とは大きく異なると考えている（図表 3）。
- ・ 当面、サブスクリプション・ビジネス（PCA クラウド・勤務管理システムの伸長、オンプレミスのサブスクリプション化など）が牽引役となり、来々期（2022/3 期）以降は再び増収増益トレンドに回帰し、中期的な年間利益成長率（平準化ベース）を 8～10% と見込んでいる。また、好業績を背景に記念配を含む増配や株式分割、加えて機動的な自社株買いなどの株主還元の強化も、今後期待される。

◆ 株価水準

- ・ 同社は、消費税増税・働き方改革のメリットが享受できる、ディフェンシブな内需小型成長株として評価されている。今期の好業績期待から、株価は急騰し 1 月 24 日には東証一部上場来の高値を更新した（同日の終値 6,240 円）。2018 年 12 月末以降、今年 1 月 29 日まで株価は約 2 倍となり、TOPIX を著しくアウトパフォームしている。しかし、新型コロナウイルスの拡大に伴う投資家のリスクオフの地合いの中、Q3 決算時に今通期の上方修正発表したもの好材料出尽くしと受け止められ、また短期的に急騰した反動で株価は調整中である。
- ・ 同社のバリュエーションは、東証一部平均（2020 年 1 月 29 日終値基準：PER15.9 倍、PBR1.2 倍、単純平均配当利回り 1.9%）に対してプレミアムがついている。但し、同業他社であるオービックビジネスコンサルティングやミロク情報サービスと比較すると、配当利回りを除き、PER（注：当部今期予想ベースでは、17.4 倍）PBR、EV/EBITDA、PSR の各指標では、依然として割安感がある（図表 5）。
- ・ 今後、株価は来期の業績を何う展開にはなるが、増配や株式分割、本来の利益成長力のポテンシャルを考慮すると、株価の調整後、中期的な視点から投資機会があると思われる。

【 図表 5 】 同業他社とのバリュエーション比較

社名	ピー・シー・エー (PCA:連結)	オービックビジネス コンサルタント(OBC:非連結)	ミロク情報サービス (MJS:連結)
コード	9629	4733	9928
株価(1/29終値)	4,580	4,345	3,070
時価総額(百万円)	35,266	350,659	106,855
PER(株価収益率)	17.7	30.5	23.5
PBR(株価純資産倍率)	2.2	2.7	4.8
配当利回り(%)	0.7	1.2	1.2
EV/EBITDA(倍)	16.3	18.8	17.0
PSR(株価売上高倍率)	2.5	11.0	3.1

時価総額=発行済株式総数×株価(1/29終値)
EV/EBITDA=(時価総額+有利子負債-現金)/(営業利益+減価償却+無形固定資産償却等)、注:時価総額以外は2019/3期実績値
PSR=時価総額/売上高(2020/3期会社予想)、PBRの計算に用いたBPSは四半期単位の直近実績値
PERの計算に用いたEPSは、全て2020/3期会社予想(配当利回り計算においても、同様に会社予想値)
PCAはQ3、OBCとMJSはQ2での決算実績値、及び会社予想値を反映

(出所)アルファ・ウイン調査部が各社の有価証券報告書、株価データから作成

【 9629 ピー・シー・エー 業種：情報・通信 】 図表 A												
決算期		売上高 (百万円)	前期比 (%)	営業利益 (百万円)	前期比 (%)	経常利益 (百万円)	前期比 (%)	純利益 (百万円)	前期比 (%)	EPS (円)	BPS (円)	配当金 (円)
2017/3		9,360	10.9	432	957.9	463	593.6	160	—	23.49	1,568.59	31.00
2018/3		9,785	4.5	807	86.8	834	79.9	441	174.1	64.37	1,644.39	31.00
2019/3		11,439	16.9	1,248	54.7	1,277	53.0	906	105.5	133.25	1,789.76	31.00
2020/3	CE	13,864	21.2	2,640	111.5	2,683	108.5	1,718	89.6	258.31	—	31.00
2020/3	E	14,000	22.4	2,700	116.3	2,730	113.8	1,750	93.2	263.11	2,021.85	41.00
2021/3	E	12,600	-10.0	2,000	-25.9	2,030	-25.6	1,300	-25.7	195.45	2,176.31	33.00
2022/3	E	13,350	6.0	2,400	20.0	2,430	19.7	1,550	19.2	233.04	2,376.35	33.00
2019/3	Q1	2,346	11.3	57	-67.1	69	-62.3	34	-64.6	5.09	1,624.69	0.00
2020/3	Q1	3,073	31.0	587	917.5	598	754.6	364	945.3	54.76	1,848.46	0.00
2019/3	Q2	2,571	8.7	187	-28.6	199	-27.7	162	1,761.1	23.52	1,699.55	0.00
2020/3	Q2	4,096	59.3	1,184	533.2	1,191	498.5	813	401.9	122.28	1,975.61	0.00
2019/3	Q3	2,919	0.2	277	-23.7	279	-23.2	175	165.4	25.55	1,677.60	0.00
2020/3	Q3	3,537	21.2	777	180.5	777	178.5	469	168.0	70.41	2,019.21	0.00
2019/3	Q4	3,603	27.5	727	491.1	730	498.4	535	77.2	79.09	1,789.76	31.00
2020/3	Q4CE	3,158	-12.4	92	-87.3	117	-84.0	72	-86.5	—	—	31.00
2019/3	Q3累計	7,836	12.6	521	-23.7	547	-23.2	371	165.4	54.16	1,677.60	0.00
2020/3	Q3累計	10,706	36.6	2,548	388.4	2,566	368.7	1,646	343.7	247.45	2,019.21	0.00

(備考) CE: 会社予想、E: アルファ・ウイン調査部予想、Q1(第1四半期): 4-6月、Q2(第2四半期): 7-9月
Q3(第3四半期): 10-12月、Q4(第4四半期): 1-3月、Q3(第3四半期)累計: 4-12月

【 株価・バリュエーション指標：9629 ピー・シー・エー 】 図表 B						
項目	2020/1/29	項目	PER(倍)	PBR(倍)	配当利回り	配当性向
株 価 (円)	4,580	前期実績	34.4	2.6	0.7%	23.3%
発行済株式数 (千株)	7,700	今期予想	17.4	2.3	0.9%	15.6%
時価総額 (百万円)	35,266	来期予想	23.4	2.1	0.7%	16.9%
潜在株式数 (千株)	0	前期末自己資本比率	59.3%		前期ROE	7.8%

(備考) 予想はアルファ・ウイン調査部予想

【 株価チャート (週末値) 9629 ピー・シー・エー 】 図表C



ディスクレマー

アルファ・ウイン企業調査レポート (以下、本レポート) は、掲載企業のご依頼によりアルファ・ウイン・キャピタル株式会社 (以下、弊社) が作成したものです。

本レポートは、投資の勧誘や推奨を意図したものではありません。弊社は投資家の皆様が本レポートを利用したこと、又は本レポートに依拠したことによる直接・間接の損失や逸失利益及び損害を含むいかなる結果についても一切責任を負いません。最終投資判断は投資家ご自身においてなされなければならず、投資に対する一切の責任は閲覧した投資家の皆様にあります。

本レポートの内容は、一般に入手可能な公開情報に基づきアナリストの取材等を経て分析し、客観性・中立性を重視した上で作成されたものです。弊社及び本レポートの作成者等の従事者が、掲載企業の有価証券を既に保有していること、あるいは今後において当該有価証券の売買を行う可能性があります。

本レポートに掲載された内容は作成日における情報に基づくものであり、予告なしに変更される場合があります。(更新された) 最新のレポートは、弊社のホームページ (<http://www.awincap.com/>) にてご覧ください。なお、本レポートに掲載された情報の正確性・信頼性・完全性・妥当性・適合性について、いかなる表明・保証をするものではなく、一切の責任又は義務を負わないものとします。

本レポートの著作権は弊社に帰属し、許可なく複製、転写、引用、翻訳等を行うことを禁じます。

本レポートについてのお問い合わせは、電子メール【info@awincap.com】にてお願いいたします。但し、お問い合わせに対し、弊社及び本レポート作成者は返信等の連絡をする義務は負いません。SV20200202-9